

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryu UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないこと。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けること。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下とすること。

NITS・教職大学院・教 育委員会等	実施機関名・連携機関名 岐阜大学教職大学院
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・岐阜大学教職大学院コラボ研修】 データを活用した学校経営充実研修
支援事業報告書	開催日時：令和7年8月18日(月)13時～15時、12月22日(月)13時～15時、令和8年2月2日(月)13時～15時50分 開催場所：岐阜大学（ZOOM 会議システムによるオンライン研修） 参加人数（総数）と参加者の属性：（26人） 校長12人、校内担当者12人、教育委員会2人

目的：

今日、全ての子どもよさや可能性を引き出す学校教育を実現するために、校長先生には従前求められてきた教育者としての資質やマネジメント力に加えて、様々なデータを活用して学校の教育力を最大化していくことが求められている（2022年12月19日中央教育審議会答申）。

本事業は、学校管理職が学校経営方針を具現化するために、どのようにデータを活用できるかの知識を学び、実践の振り返りから気づきを得る探究型研修を開発した。

内容： 研修受講者（研究協力者）：山県市小学校9校・中学校3校の校長先生（及び校内担当者）

①データを活用した学校経営充実研修 8月18日(月)13:00-15:00

校長先生の問題意識を明らかにし、どんなデータに注目し、どのように活用するかを考えた。

第1部 講義：学校経営方針を具現化するためのデータ活用

岐阜大学教職大学院（平澤紀子教授、吉澤寛之教授、原尚特任教授、古賀英一特任教授）
岐阜県教育委員会教育総務課教育主管 三島晃陽氏

資料提供 岐阜市立加納小学校校長 岩佐優氏

第2部 グループワーク：自校の充実策の作成、第3部全体交流・まとめ

なぜ、データを活用するのか？

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 経験や勘は大切、でも・・・
→教育目標と実態のずれ→管理職と教職員のずれ→子どもと教職員のずれ→教職員と保護者のずれ・ 教育指導が不十分に・ リスクに気づかない、問題が拡大・ 子ども、教職員、保護者、地域の信頼低下・ 教育目標の実現が不十分 | <ul style="list-style-type: none">・ 経験や勘を確かなものにする
→実態に応じた教育目標→教職員のベクトルを同一にできる→子どもの願いや困りに寄り添える→保護者の願いや困りに寄り添える・ 適切な教育指導・ リスクを把握し、予防的に対応できる・ 子ども、教職員、保護者、地域の信頼向上・ 教育目標の実現 |
|---|--|



②フォローアップ研修 12月22日(月)13時～15時

実践成果を報告、交流し、何が大切かを整理した。

③岐阜大学シンポジウム「学校経営にデータを活用するとは？」令和8年2月2日(月)13時～15時50分 全国の大学、学校、教育委員会、市民等140名が登録し、活発な討論がなされた。（第1部基調講演「管理職研修の高度化と教職大学院の役割」文部科学省総合教育政策局政策課長 吉田光成氏）、第2部事業報告、第3部参加者交流）

成果：

①全体的満足度：10点中8.7点

②研修で得られたこと：「知識」「自校の充実策」のいずれも「得られた」「ある程度得られた」と回答された。

③研修後に実践したこと：学校経営の困りを分析したり、予防的対応を強化したり、その成果を子どもや教職員、保護者に共有していた。

